

地域課題・目指す将来像

地域
課題

- 対象となる榛原天満台地区は、最寄駅から徒歩30分で、高齢化率40%を超えるオールドニュータウン。団地内に高低差があり、徒歩移動が難しい状況
- 人口の減少、団塊の世代の引退等により路線バスが大幅に減便され、通勤・通学利用が困難
- 路線バスの維持確保のために、民間バス会社に対して年間50,000千円以上の赤字を市が負担しており、今後の市内交通の維持確保が大きな課題

将来像

- 全世代が住み続けられるまち

推進体制

名称：宇陀市スマートシティ推進協議会

地方公共団体	宇陀市、奈良県、奈良県警
国 (★は現地支援責任者)	国土交通省（★近畿地方整備局奈良国道事務所、近畿運輸局）、警察庁（交通局）、総務省（近畿総合通信局）、環境省（地球温暖化対策課）
民間事業者等	奈良交通(株)

課題解決に向けた取組

(写真・図：宇陀市提供)

未来技術を活用した移動手段の社会実装

⇒通院・買い物の利便性を向上し、全世代が住み続けられるまちの実現

①自動運転技術の導入事業【自動運転】

- 自動運転技術（レベル4）を活用し、高齢者の移動が多い日中の時間帯を中心に病院やスーパー等を複数回周回することにより高齢者の移動手段を確保

②通院・交通における予約の一元化事業【AI】

- まず、乗車予約システム技術の活用により、市民病院の受診時に次回の受診予約とあわせて、通院のためのバス等の乗車予約を行えるようにする
- 次の段階として、一部地域の住民に試験的にタブレット端末を支給し、通院予約とあわせて行政情報等の提供行う

③キャッシュレス決済を活用した公共交通における利用促進事業【キャッシュレス】

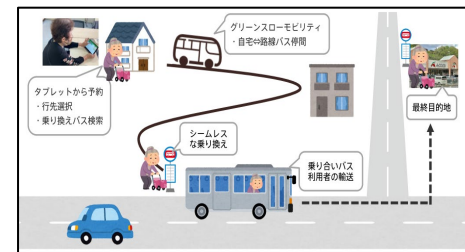
- 自動運転車両及び沿線を運行する路線バスを利用された方に、支払った運賃の数パーセントのポイントを付与することで市内交通の利用促進を図る

④AI技術を活用した顔認証による見守り・防犯システムの導入事業【AI】

- 安心・安全に暮らせるまちを実現するために、AI技術を活用した顔認証による見守り・防犯システムの導入



R5年度自動運転導入車両 (株)ティアフォー提供画像)



通院・交通における予約の一元化イメージ図

① 自動運転技術の導入事業【自動運転】

取組内容

➤ 自動運転の実証実験実施（2023年12月4日～12月22日）

R5実証実験内容（結果）

利用者数：延べ **963**人 目標達成率：**327%**

西ルート：自動運転車両

- ・大和富士ホール⇔宇陀市立病院
- ・片道約2.7km
- ・10人乗りグリスロタイプ



西ルート：自動運転車両

東ルート：グリスロ(手動運転)

- ・大和富士ホール⇔
Aコープ榛原店・コーナン榛原店
※乗降場所は手前のポンプ場
- ・片道約600m
- ・7人乗りカート



東ルート：グリスロ（手動運転）



運行ルートと停留所（R5年度）

R6実証実験内容（予定）

・路車協調システムによる見通し不良箇所の改善

安全性・円滑性が重要視される箇所に路車協調システムを設置し、自動運転バスへ道路交通状況に関する情報提供を行い、自動運転バスの走行支援の有効性を評価します。

・信号連携による灯色認識低下箇所の改善

令和5年度年事業において西日による信号灯色認識機能の低下により手動介入が発生した信号交差点にて信号連携を実施することで灯色の認識機能を向上させ、円滑・安全な走行を目指します。